

ハテノウタ 新聞

2017年2月16日創刊 週刊 毎週木曜日発行
http://www.c-mono.com/hatenouta/

創刊
特集号
2頁建

2017年2月16日〔木曜日〕

発行所 有限会社キューカンバー
京都市東山区蒔田町 549-3 藤ビル 2F
〒605-0942
TEL075-525-2195
発行人 MONO 新聞部
【無料】

MONO

浦鳴りんこ・特別対談

「会話劇」のMONOが、「歌」に挑戦!! MONO・新作公演『ハテノウタ』

2017年3月3日より、大阪・北九州・四日市・東京にて上演するMONOの新作公演『ハテノウタ』。MONO初出演となる浦鳴りんことMONO代表の土田英生が対談を行いました。

MONO初出演となる浦鳴りんこは、DREAMS COME TRUEのバックヴオーカリストを務め、「JUNK THE PEANUTS」で人気を博す一方、様々なミュージカルで演技力を高く評価されている。土田英生は、MONOの劇作・演出、テレビドラマ『斉藤さん』の脚本、映画『約三十の嘘』の脚本などを手掛ける。

「音楽」と「演劇」、異なるジャンルで活動を続けてきた二人が、出演の経緯から音楽と演劇の違いまで語り合いました。

「音楽」と「演劇」、異なるジャンルで活動を続けてきた二人が、出演の経緯から音楽と演劇の違いまで語り合いました。



土田英生と浦鳴りんこ（京都芸術センター：西山榮一（PROPELLER.））

「音楽」と「演劇」、異なるジャンルで活動を続けてきた二人が、出演の経緯から音楽と演劇の違いまで語り合いました。

「音楽」と「演劇」、異なるジャンルで活動を続けてきた二人が、出演の経緯から音楽と演劇の違いまで語り合いました。

初MONO特典!!

初観劇の方にグッズ割引券プレゼント

『ハテノウタ』で44回目の公演となるMONO。今公演では新しい観客との出会いを目的に「初MONO特典」を行います。「初MONO特典」とは、MONOを初観劇の人に「500円分のグッズ割引券」をプレゼントする試みです。制作の垣脇純子さんは「観劇人口が減りつつあることをここ数年ずっと感じていて、できることは何か」と模索し続けてきました。私は大学で演劇を専攻していました。観ていなくて…そんな中、偶然観たMONOにとても惹きつけられました。私のように初めてMONOを観たという方に、観劇経験を忘れない

「観劇人口が減りつつあることをここ数年ずっと感じていて、できることは何か」と模索し続けてきました。私は大学で演劇を専攻していました。観ていなくて…そんな中、偶然観たMONOにとても惹きつけられました。私のように初めてMONOを観たという方に、観劇経験を忘れない

劇団から

私は学生の頃に初めてMONOと出会いました。それまであまりお芝居を観たことがなくて、「なにやら大げさで観ているこっぴどい感じが恥ずかしい」という印象を持っていました。偶然MONOに出会いまして、「お、このお芝居は恥ずかしくない」と思ったのが興味を持った理由です。

MONOが当時の私にとって恥ずかしくなかったのは、余計なことを考へる間がなかったからなのかなと思います。あとあと考えるに、そうやって「余計なことを考へずに物語に引きこむ」ための仕掛けはたくさんされています。

自分の理解の一手手前まで耳に入ってくる次のせりふ、ちらっと自分の暗部を見せられた気分になるキャラクター……。

華美な要素が少ないお芝居ですが、細かく丁寧に張られた仕掛けもMONOを観劇するの楽しみのひとつかと思えます。皆さんもぜひ、自分なりの「MONOの面白いところ」を探してみてください。

垣脇純子

